
真夜中の訪問者

深チヨンピ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

真夜中の訪問者

【Nコード】

N3138A

【作者名】

深チヨンピ

【あらすじ】

深夜、ふと目覚めると、そこには天使を名乗る少年が立っていた。
…。サンタさんはいる！！そんな人達に薦めたい。

ふと目が覚めると、そこには背中に羽を生やした一人の少年が立っていた。時計の短針はまだ「2」を指しており、普段の起床時間までまだ大分時間がある。寝ぼけた頭でそんな事を考えていると、目の前にいる羽を生やした少年が部屋の電気をつけた。

「今日は…。私は天使。貴方の願いを叶えに来ました」

部屋の蛍光灯に目がチカチカした。だが、そのおかげで目の前にいる異様な姿の少年の異様さに気付くことが出来た。

「誰ですか！？人の部屋で何をしているんです！？」

「だから、私は天使です。普段善行をしている貴方の願いを叶えに来たんです」

天使って…。こんな嘘、ちよつと昔の夢見がちな少年少女達も信じてないだろう。この少年は強盗なんだろうか。それとも頭でも打っているのだろうか。

「君の目的はなんだい？お金か？でもね、こんな事するとご両親は悲しむよ？」

「違いますって！！だから私は天使なんです！！この通り羽だって生えてるでしょう！！」

そういうと背中の中を羽をこちらに向け、パタパタと動かして見せた。だがどう見ても飛べるような動きではなく、ただ虚しく羽音だけが

部屋の中に響いていた。

「…君ね、そんな子供だましな玩具で大人を誤魔化せると思っているのかい？」

「……もういいです。信じてもらえない事があるって、常々神様もおっしゃってましたし」

やっぱり、こいつどこかで頭でも打ったんだろう。誰がどう見てもサイコだ。それに何時の間にかもう一時間も経っている。明日もいつものように会社だってあるのに…。このままじゃ寝不足で参ってしまう。

「とりあえず、明日早いんだからもう帰ってくれないか？」

「いや、私も貴方の願いを叶えるという大事な使命があるんです」

「それなら早く帰ってください。それが私の願いです」

「そんな一時的なものでなくてです!!」

本当に迷惑な奴だ。 仕方がない。話を合わせて満足させて帰させるか。

「いくつまで聞いてくれるんだ？」

「いくらでも大丈夫です」

…あれ？なんかおかしくないか？こういう時って普通一つとか三つとかだろ？……あ、でも俺が一つって言えばいいのか。それでも、

どこがおかしい。

「あ、でも人を生き返してとか誰かを殺したいとかは止めてくださいね。見てのとおり天使なんで、そんなこと出来ないんで」

どう見てもサイコにしか見えないのだが。こいつを追い出すには時間がかかりそうだ。そんな時、俺はとっさに一つの名案が浮かんだ。

「じゃあ、一つだけ。…俺を大金持ちにしてくれ」

これならきつと帰ってくれるだろう。絶対にこいつ金持ってないし。

「いいですよ。いくらですか？」

…嘘。こんなサイコな奴にそんな財力があるのか？…いや、きつと子どもだから安く見積もってるんだろう。ここで引き下がってはいけない。

「手取り百億ぐらいかな。もちろんドルで」

「分かりました。お渡しはドルのままで？それとも円に？」

…あれ？あれ？本当に払う気なのか？そんな財力がこの子にはあるとでも言うのか！？…いや、収入のない子どもに限ってそれはないだろう。きつとどこかで盗む気だ。……そうすると俺も下手したら共犯で逮捕されちゃうだろ！！ダメだダメだ！他のことにしよう。

「やっぱりお金はいい」

「じゃあ、何にします？」

そう言われてもな…。他には思い浮かばないし。…そうだ!!

「かわいい彼女を…」

「無理です」

「早いな」

「貴方のかわいいうっていう基準が分かりません」

確かに。かわいい子って言ったっていろいろ居るもんな。それにこいつに連れてこられる訳ないし。何時の間にかもう時間が五時半になっていた。こんな奴と一晩中間答してたのかと思うとため息が出ちまう。…もう最後の手段だ。

「じゃあ、俺を健康にしてくれ」

「分かりました」

心の中ではまさか本当に天使なんでは…なんて思っではいたけどもう時間がない。こいつを追い返しつつ、もっともリスクが無いのはこれしかない。

「はい」

俺の目の前に、一本の野菜ジュースが置かれた。

「これを飲むと身体にいいんですよ」

「
…」

「それじゃ、私はこれで…」

やっぱり、天使なんていない。その事を俺は確信した。

「ちょっとすいません」

「まだ居たのか…。なんだよ？」

「駆って…どっちの方向です？」

「歩いて帰れ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3138a/>

真夜中の訪問者

2010年10月28日03時45分発行